

## 自己評価報告書

平成23年5月12日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520617

研究課題名（和文） アッバース朝書記史料による書記官僚社会と文書行政の総合的研究

研究課題名（英文） Studies on the `Abbasid administration and the bureaucratic society through the secretarial sources.

研究代表者

清水 和裕 (SHIMIZU KAZUHIRO)

九州大学・人文科学研究院・准教授

研究者番号：70274404

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：東洋史

## 1. 研究計画の概要

本研究は、10世紀アッバース朝の書記官僚社会と文書行政について、両者の関連性に着目しながら、その全体像を明らかにしようとする実証研究である。この時期の代表的な書記であるアブー・イスハーク・サービーが残した膨大な文書群のあり方を写本調査によって継続的に明らかにするとともに、アブー・イスハークと同時代の書記官僚達が残した、他の文書群や文学、歴史学、倫理学など多岐にわたる著作を分析することによって、両者の関連を明らかにする。これによってアッバース朝の書記官僚社会と文書行政の関係性を分析し、当時の書記官僚が形成した相互規定的な文化や行政技術、規範意識などを明らかにし、ひいてはアッバース朝行政のあり方を解明しようとするものである。

## 2. 研究の進捗状況

(1) アブー・イスハーク・イブラーヒーム文書集の各種写本群を継続的に比較検討し、その内容の分析を進めるとともに、イブン・アルアミードおよびサーヒブ・イブン・アッバードの文書集の内容および様式の検討に着手し、各文書集の内容の比較および体系的把握を行った。特に現在では、書記文書や書記史料に現れる「奴隷」の様態とその叙述のありかたに注目し、作業をすすめている。

(2) 比較の視点から、アッバース朝後期の代表的な書記典範であるクダーマ・ブン・ジャーファル『書記の流儀』、およびアッバース朝行政に大きな影響を受けたマムルーク朝の書記典範であるウマリー『高貴なる用語』の読解分析を進め、特殊な行政用語の解析をすすめることによって、アブー・イスハ

ーク・イブラーヒーム文書群の理解の深化に努めた。特に、アッバース朝期とマムルーク朝期のアフド文書における「命令文」の比較をすすめ、アッバース朝期のアフド文書様式に関する研究をより高度に組み直し、その成果を論文として発表するとともに、マムルーク朝の事例における特徴の把握と整理に努めている。

(3) 初期イスラーム史における書記官僚社会の様態を検討する必要から、「初期イスラーム史研究会」を立ち上げ、若手を中心とした研究者との意見交換。成果発表の場とし、アッバース朝書記研究推進の場を設定した。これによって、アッバース朝書記官僚の残した多岐にわたる著作の在り方について、その検討をすすめてつある。

(4) アッバース朝行政関連図書の購入と整理をすすめ、九州大学所蔵書として設置した。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

当初の計画に従って、アブー・イスハーク・イブラーヒーム、イブン・アルアミード、サーヒブ・イブン・アッバードらの文書集の検討をすすめ、その内容と様式について一定の見解を得た。またクダーマ・ブン・ジャーファルの書記マニュアルとの比較を進めることによって、アッバース朝後期の書記官僚業務の在り方をかなりの程度明らかにし、さらにマムルーク朝の比較の手法を導入することにより、アッバース朝行政の諸機構や行政概念の特徴を検討しつつある。一方で、官僚などの著した文学作品などの検討が残されており、最終年度の課題となっている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

(1) 上記のとおり、書記官僚の著した文学作品に対する検討が今後の大きな課題である。これについて、特にアッバース朝においては異教徒官僚や宦官が重要な位置を占めたことから、異教徒・異民族・奴隷に関する視座を重視し、このような主題の逸話集などの内容分析を進め、これにより書記官僚社会の具体的な姿を明らかにすることを試みる。

(2) また上記と関連して、具体的に10世紀のタウヒーディーの著作をとりあげ、官僚出身の文学者が、他の官僚とのネットワークの中でどのような言説形成に関わってきたかを検討する。これは過去に行った、ミスカワイフの年代記著作と宮廷文書の表現の関係に関する研究を敷衍する形でおこない、書記官僚社会の言説と、現実の宮廷政治や外交関係の連動についての検討を進める。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 清水和裕 「10世紀イラクのアブー・イスハーク・イブラーヒーム文書集に見るアブド文書様式」『史淵』147輯, 2010, 205-233
- ② 清水和裕 「中世イスラーム世界の黒人奴隷と白人奴隷: <奴隷購入の書>を通して」『史淵』146輯, 2009, 153-184
- ③ 清水和裕 「ヤズデギルドの娘たち: シャフルバーヌー伝承の形成と初期イスラーム世界」『東洋史研究』67-2, 2008, 1-30

[学会発表] (計1件)

- ① SHIMIZU Kazuhiro, “Ibn Hamdi and Hakamadare, Iraqi-Japanese Symposium (ペーパー参加), 18. September. 2010, Irbil, Iraq.”

[図書] (計1件)

- ① (共著) 吉田伸之・伊藤毅 編『伝統都市 2 権力とヘゲモニー』東京大学出版会、2010, 239-251.